

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要(Plan)	KPI指数(令和5年度目標値)	令和5年度の取組の状況(Do)	進捗状況	取組の検証(Check)	取組の改善案(Act)	令和6年度の活動計画
1	I.「高めて、広げる」	①外国人観光客の受入促進	1-1外国人観光客の受入促進	外国人観光客にとってのデスティネーション(旅の目的地)形成に向けた受入基盤整備、WEBやSNSほかデジタル技術を活用した海外向け情報発信、海外での商談会、海外インフルエンサーの活用、外国人に対応できる人材の育成等により、アフターコロナの外国人観光客から「選ばれる観光地」を目指します。	①外国人観光客向けのツアー販売 紹介数 2回 ②海外ターゲット国への効果的な情報発信 国数3か国 ③海外旅行博、商談会の実施 件数 3件	①外国人観光客向けのツアー販売 紹介数 2回 ②海外ターゲット国への効果的な情報発信国数3か国 ③海外旅行博、商談会の実施 件数 3件 ○外国人観光客受入基盤整備・情報発信業務(DMO) ・オーストラリアや台湾での旅行博、商談会に参加し、外国人観光客向けのツアー販売を促進した。 ・海外ターゲット国への効果的な情報発信を行った。	順調	・国際線の運航再開、円安の背景もあって日本への注目度は高く、外国人観光客の回復が見えはじめた。 ・中国からの誘客は少ないものの、台湾、香港、シンガポール、欧米豪FITも増えているほか、アメリカINDY PASSツアーの販売も好調に推移した。	・海外ターゲット国への効果的な情報発信にCRMを活用する。 ・岩手県との連携により、上海便の運航再開や海外エージェン特へのPR活動を強化する。	○外国人観光客受入基盤整備・情報発信業務(DMO) ・海外ターゲット国への情報発信・旅行サービス案内・ツアー紹介 ・Snow Travel Expo Sydney 2024への出展と現地での情報発信 ○外国人観光客誘客事業(協会) ・訪日外国人宿泊者への助成 ・ターゲット国への効果的なプロモーション
2	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2-1「すべての人が楽しめる」ナショナルパーク八幡平の環境整備	ナショナルパーク八幡平は、山頂付近の勾配が非常に緩やかで、誰もがアクセスしやすい日本百名山です。これを、誰もが到達できる、ユニバーサルデザインの名山として捉え、老若男女、年齢や身体的な理由で登山を諦めていた人にも、登山の魅力を提供できる、ユニバーサルツーリズム(すべての人が楽しめるよう創られた旅行)を推進します。	①木道・遊歩道、案内板の整備 実施箇所 1か所 ②ユニバーサルツーリズムツアーの検証・実施 モニターツアーR8までに1回	①木道・遊歩道、案内板の整備 実施箇所 2か所 ②ユニバーサルツーリズムツアーの検証・実施 - ○黒谷地湿原木歩道改修(県) ○御在所沼遊歩道改修(市) ○ユニバーサルツーリズムに繋がる団体のイベント支援を通じて交流を行った。(市)	順調	・ユニバーサルツーリズムに繋がる団体との交流を強化し、ユニバーサルツーリズムの推進に向けた方向性を検討する必要がある。 ・ハード面、ソフト面の両方で可能な方法があるかも含めて検討する。	・モニターによる検証に向けての準備が必要である。 ・国立公園内での取組のため、環境省、森林管理者、県等の関係機関との検討が必要である。	○自然保護管理員のパトロールで把握した木道、遊歩道、案内板の修繕箇所について、管理者である岩手県に対して要望を行う。(市) ○黒谷地湿原木歩道改修(県) ○御在所沼遊歩道改修(市) ○山岳関係団体やバリアフリーイベントの関係者と意見交換を行う。(市)
3	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2-2トレッキングガイドの観光商品・受入基盤整備	トレッキングガイドの利用促進や人材の確保、質の向上を目的に、八幡平山頂エリアのガイド人材の育成、WEBによるガイド予約販売の仕組みを構築し、ツアー造成や販売を実施します。	①50kmトレイル等ガイド付きツアーのWEB予約・販売の仕組みづくり R6構築完了 ②とびっきりな八幡平の魅力を際立たせるツアー造成・販売 6回 ③プロガイドの育成・確保に向けた基盤整備 検討開始	①50kmトレイル等ガイド付きツアーのWEB予約・販売の仕組みづくり - ②とびっきりな八幡平の魅力を際立たせるツアー造成・販売 6回 ③プロガイドの育成・確保に向けた基盤整備 検討開始 ○観光地の持続化・エリアブランド化事業(DMO) ・七滝スノーシューツアーやCATなどを活用した旅行商品を造成しクラブツーリズム(株)を通じて販売を実施した。 ・観光再始動事業を活用し、広域連携での観光体験コンテンツを販売した。(DMO) ・八幡平散策ガイド向けの人材養成を行った。	順調	・外国人観光客からは、地域ガイドやスルーガイドのニーズが増えており、富裕層向けも合わせてガイド育成を検討していく必要がある。 ・八幡平山頂エリアの散策ガイド人材の確保が急務である。	・「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業との連携で取組む。 ・八幡平山頂エリアのガイド人材の確保を目的に実施したガイド養成事業で3名の人材を確保することができたことから、継続した取組を行う。	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会) ・トレッキングガイドの観光商品・受入基盤整備 ○八幡平市自然ガイド養成事業(協会) ・八幡平山頂エリアのガイド人材の養成。
4	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2-3アドベンチャーツーリズムの観光商品強化	十和田八幡平国立公園及び周辺エリアにおいては、高単価な客層に対して「自然」、「アクティビティ」、「文化体験」の3要素のうち2つ以上で構成される「アドベンチャーツーリズム」の付加価値の高い観光商品の造成と営業強化を実施します。	①北東北と連携した広域アドベンチャーツーリズムの観光商品造成・販売数 R6～R8 年1件	①北東北と連携した広域アドベンチャーツーリズムの観光商品造成・販売数 1件 ○【観光庁】ワシントンD.C.ミシュラン二つ星レストラン「JONT」の顧客向けに安比高原のパウダースノーと五つ星ホテル宿泊のツアー造成を行なった。(DMO)	順調	・北東北の広域で商品を造成し、販売まで見据えた場合の運営体制の検討が必要。	・「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業を通じて、北東北のDMOとの連携した商品造成の基盤構築が重要である。	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会)
5	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2-4モリアオガエルをアイコンとしたブランディング	「大揚沼モリアオガエル及びその繁殖地」は国指定から50周年を迎えます。市民も観光客も、八幡平の豊かな森と自然に誇りを持ち、天然記念物の生息地を保護する活動を広げ、ナショナルパーク八幡平を象徴するアイコンとして、ロゴやキャラクターの整備、各種情報発信やツアー造成、土産品開発等の活用を推進します。	①モリアオガエルをアイコンとしたプロモーション R8 完了 ②モリアオガエル観察会の検討・実施 R8までに 1件 検討	①モリアオガエルをアイコンとしたプロモーション - ②モリアオガエル観察会の検討・実施 - ・個人事業者の活動で、モリアオガエルの写真展の実施、写真絵本、カレンダーの販売があった。(民間) ・市フリーマガジン「ハチクラ」でモリアオガエルのキャラクターを掲載した。(商工会)	やや遅れ	・モリアオガエルを新たなアイコンとして観光振興を図ろう取り組んだが、キャラクターや写真の権利の関係等により、市・観光協会での取組みではなく、民間ベースでの展開が望ましい。	・引き続き、ハチクラによる情報発信により、観光振興に繋げる。	○ハチクラによる情報発信(商工会)
6	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3-1市内スキー場のインフラ投資、DX基盤整備	スノーリゾートを最大の武器に、インバウンドの伸びを加速させるため、ICゲート等スキー場の適切なインフラ投資、人手と人材の両面での不足を補い、CRMを高度化するDX基盤整備の推進、広域共通リフト券の展開、グリーン期の受入基盤整備、スキー場間をつなぐ公共交通手段の確立等を支援することで、スキー場の魅力化を狙います。	①スキー場インフラ整備の支援 申請回数1回 ②CRM基盤構築 R8構築完了	①スキー場インフラ整備の支援 申請回数1回 ②CRM基盤構築 取組みに向けた申請1件 ○【観光庁】「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」(DMO) ・市内スキー場のインフラ整備(AI多言語放送システム構築、キッズスクール・キッズスペースの充実)に支援した。 ・新規顧客データを管理するためのCRM構築基盤システムの整備を行った。	順調	・温暖化等により、国内のスキー場のオープン期間が短くなる傾向だが、八幡平エリアは比較的、雪が多いため、他地域からの誘客を狙うことができる。 ・リフト券や飲食の高単価化等により、経営の改善がみられた。 ・八幡平のメーリングリストの開封率は高く、情報を求めている層は多い。	・スキー場のオープン期間を維持するためのインフラ整備が必要。 ・グリーン期の魅力の向上。 ・CRMを活用したタイムリーな情報配信が重要であり、情報配信を実施する運営体制の強化が必要。	○CRMシステムの運用 ・八幡平ファンの構築 ○【観光庁】「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」(DMO)

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要(Plan)	KPI指数(令和5年度目標値)	令和5年度の取組の状況(Do)	進捗状況	取組の検証(Check)	取組の改善案(Act)	令和6年度の活動計画
7	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3-2海外ファミリー層、富裕層向けの観光商品開発	ハロウィン・国際ナショナルスクール安比ジャンプの開校を経済効果の機会として、ファミリー向けコンテンツの開発や海外ファミリー層への発信、芸術とのコラボレーションといった上質なコンテンツの開発、グリーン期のコンテンツ開発等、富裕層受入に見合う価値の創出を行います。	①ファミリー向け雪遊び観光商品の充実化 コンテンツ開発1回 ②スキー場×アート、テーマパーク化など上質な価値の創出 実施数2回 ○観光地の持続化・エアブランド化事業(DMO) ・JR東日本びゅうツーリズム&セールスと連携し、首都圏に2~3週間滞在する外国人富裕層向けの1泊2日商品を開発、販売につなげた。 ・国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業(観光庁)を活用し、キッズスクール・キッズスペースの充実)を支援した。	①ファミリー向け雪遊び観光商品の充実化 コンテンツ開発1回 ②スキー場×アート、テーマパーク化など上質な価値の創出 実施数2回 ○観光地の持続化・エアブランド化事業(DMO) ・JR東日本びゅうツーリズム&セールスと連携し、首都圏に2~3週間滞在する外国人富裕層向けの1泊2日商品を開発、販売につなげた。 ・国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業(観光庁)を活用し、キッズスクール・キッズスペースの充実)を支援した。	順調	・安比高原スキー場は、スノーリゾートの新たな魅力化として、キッズスクール・キッズスペースを改修しサービス向上を実施した。 ・安比高原スキー場は、土産物店を併設したベーカリーカフェ「HOUSE APP」をオープンし、上質な価値の創出を行った。 ・各スキー場において、滞在の魅力化を進めるためリニューアルの計画を進めている。 ・ファミリー層向けの設備が充実してきているが、富裕層向けのコンテンツやおもてなしガイド等が不足している。	・富裕層受入の実証により、八幡平市でできる持続可能な高単価コンテンツ、おもてなしガイドの育成等を実施する必要がある。	○【観光庁】地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業(DMO) ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会)
8	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3-3宿泊施設、観光施設の上質化や多様化	国等の支援を活用し、スキー場や国立公園のベースタウンとなる宿泊施設や観光施設において、上質かつ多様な滞在環境の開発促進を行います。宿泊事業者の高齢化等が進む八幡平温泉郷においては、泊食分離、地域まるごとホテルの推進等、中長期滞在者を対象とした滞在環境の充実を図ります。また、ワーケーション滞在等の支援も引き続き実施します。さらに、今後の観光集客における重要な要素として、省エネ、カーボンニュートラル、廃棄物の削減を意識した取組を行います。	①サステナビリティを意識した宿泊施設・観光施設の改修1施設 ②八幡平温泉郷の泊食分離・地域まるごとホテルの推進2施設	①サステナビリティを意識した宿泊施設・観光施設の改修1施設 ②八幡平温泉郷の泊食分離・地域まるごとホテルの推進0施設 ○【観光庁】地域一体となった観光地の再生・高付加価値化事業は2次申請、3次申請が不採択となった。	やや遅れ	・八幡平温泉郷の地域まるごとホテルの推進は、令和6年度に貸別荘の購入が計画されている。また、ペンションの事業承継や新規参入などの新たな動きが出始めている。 ・地域まるごとホテルの中心的施設が令和5年11月から休業となっている。	・地域一体となった観光地の再生・高付加価値化事業の申請体制の強化が必要。 ・八幡平観光活性化合同会社等の関係者との協議。	○【観光庁】地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業(DMO)
9	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3-4バックカントリーの受入環境整備	CAT(雪上車)利活用推進やバックカントリーエリアでのマナー啓発、雪崩リスク管理や環境破壊への対策、夏季の環境整備等を通じて、持続可能な八幡平バックカントリーエリアを推進します。	①バックカントリーエリアの持続可能性に関する啓発につながるワークショップ 実施数 1回 ②CATを利用したバックカントリースキー/スノーボード以外のメニューの開発 商品数 R6-R8 各1商品 ③持続可能と地域との共存を前提としたCATの運行 稼働率 65%	①バックカントリーエリアの持続可能性に関する啓発につながるワークショップ 実施数 4回 ②CATを利用したバックカントリースキー/スノーボード以外のメニューの開発 商品数 1商品 ③持続可能と地域との共存を前提としたCATの運行 稼働率 57% ○バックカントリー環境整備事業(大黒森組合) ・CATスノーシューツアーの実施 ・雪崩情報の発信	順調	・バックカントリーでの危険性の認識が広がり、令和5年度は熟練したBCスキーマーからの安全管理の認識の違いによる意見を頂く場面が増え、組合全体で有効な対応により理解が深まった。 ・スノーモービルの利用者が大黒森周辺で活動が目立つようになっており、事故やトラブルが懸念される。 ・八連隊との連携を含む、行政の防災セッションとの協議が進んだ	・大黒森管理協同組合が果たしている実際の役割やマンパワーの状況を把握した上で、その公共性に鑑みて委託内容が適切であるかを再検討。 ・旅行会社と連携してスノーシューの商品造成を進める。 ・エリアの有り方やルールの有り方を多様な関係者を交えて意見交換を行う。	○バックカントリー環境整備事業(大黒森組合) ・大黒森管理組合でBCワークショップを実施 ○国有地(ゲレンデ)借上げ(市)
10	I.「高めて、広げる」	④スポーツツーリズムの推進	4-1スポーツツーリズムの推進	スキー場やサッカー場、ラグビー場等の施設を活用したスポーツツーリズムによる受入を推進します。また、社会人チームの誘致、観光資源との連携による延泊につながる取組により経済効果の拡大を狙います。	①スポーツ合宿、社会人合宿の受入推進 誘致チーム 1チーム ②観光資源との連携による延泊の推進(合宿者への商品紹介)紹介チーム数 3チーム	①スポーツ合宿、社会人合宿の受入推進 誘致チーム 12チーム ②観光資源との連携による延泊の推進(合宿者への商品紹介)紹介チーム数 2チーム ・通年でスポーツ合宿及びスポーツイベントの招致活動を継続して行い誘客を促進した。 ・新たな大会誘致により宿泊に繋がった	順調	・宿泊施設の減少や宿泊単価により、受入れそのものが厳しい状況となっているが、競技団体等との協議により、閑散期の受入れを推進した。	・宿泊施設の受入れ数やグラウンド数の状況に合った合宿、大会の誘致に切り替える必要があるため、各関係者での連携が必要。	○八幡平スポーツ誘致委員会として、スポーツ大会、合宿の誘致(協会)
11	I.「高めて、広げる」	④スポーツツーリズムの推進	4-2サイクルツーリズムの振興	八幡平アスピーテラインや八幡平パノラマライン等、景観に優れたルートを活用し、八幡平ヒルクライム大会の実施や、e-bikeを活用したライドツアーを造成します。また、国内外に八幡平サイクルツーリズムの情報や魅力の発信を行います。	①e-bikeを活用したMTB等ツアーの造成 造成数 1ツアー ②サイクルイベント・ツーリング大会等の誘致 大会数 1大会 ③サイクル・ツーリングコースの情報発信 実施回数 1か国	①e-bikeを活用したMTB等ツアーの造成 造成数 1ツアー ②サイクルイベント・ツーリング大会等の誘致 大会数 1大会 ③サイクル・ツーリングコースの情報発信 情報発信の実施 1か国 ○岩手県広域サイクリングルート検討会議で、広域でのサイクリングガイドコースが形成された。	順調	・アドベンチャートラベルでもサイクルツーリズムのニーズが高まっている。 ・サイクルツーリズムのガイド事業者は限られている。 ・オンロードコースはいくつかあるが、オフロードコースが不足している。	・ガイドや事業者などの担い手の人材育成やアドベンチャー向きのコースの整備が必要である。	○体験OTAや旅行会社と連携した販売促進(DMO) ○岩手県広域サイクリングルート検討会議による道路標示や案内看板の設置(県) ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会)
12	II.「伝えて、育む」	⑤地熱等の資源からSDGs、サステナビリティを学ぶ	5-1地熱、松尾鉱山等を活用した教育旅行、企業研修の推進	地熱発電所による地熱資源を活用した農業や地熱蒸気を使った地熱染め、安比高原の中のまきばの野芝の再生活動等、サステナブルな取組が行われています。こうした地域資源や松尾鉱山の学びを生かして、教育旅行や企業研修誘致の取組を推進し、閑散期の集客を目指します。	①SGDs教育旅行のプラン造成・情報発信、受入の支援 教育旅行の新規誘致数 4校 ②高単価な企業研修受入の推進 企業研修の新規 2社	①SGDs教育旅行のプラン造成・情報発信、受入の支援 教育旅行の新規誘致数 1校(4コース・206人) ②高単価な企業研修受入の推進 企業研修の新規 2社 ○観光地の持続化・エアブランド化業務(DMO) ・SDGs修学旅行、企業研修のコーディネート業務を行った。 ・筑波大附属高校の教師にSDGs教育旅行について共有した。 ・JTB・JR東日本商事と新しい教育旅行の企画提案を行った。 ・教育旅行誘致補助金交付14校、700千円(市)	順調	・閑散期対策の手段としての教育旅行の受入を実施してきた経緯がある。 ・大型の教育旅行を受入れできる宿泊施設が減少している。 ・価格競争に陥りがちな教育旅行での差別化の必要がある。	・教育旅行受入をどのように推進するか検討する必要がある。 ・深いテーマ性を求める教育旅行のニーズに対応できる体制が必要である。	○JTB、JR東日本商事との教育旅行を通じて、より深い探求学習を行いたいターゲットに対する八幡平独自のプログラムを開発(DMO) ○教育旅行誘致補助金(市)

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要(Plan)	KPI指数(令和5年度目標値)	令和5年度の取組の状況(Do)	進捗状況	取組の検証(Check)	取組の改善案(Act)	令和6年度の活動計画
13	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6-1 歴史的・文化的資源を活用した広域連携の強化	令和2年「奥南部」漆物語～安比川流域に受け継がれる伝統技術～」が、文化庁の日本遺産に認定されました。また、令和3年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されたことにより、北東北での周遊のニーズが高まると想定されます。江戸時代の物流を支えた鹿角街道、古くから続く馬事文化に絡め、安比高原中のまきばも、地域資源として積極的に活用し、文化や歴史を共有する自治体との広域連携強化を推進していきます。	①漆器、鹿角街道、縄文などをテーマとした広域ツアー造成、販売 歴史文化ツアー組込数1回	①漆器、鹿角街道、縄文などをテーマとした広域ツアー造成、販売 歴史文化ツアー組込数3回 ・日本遺産「奥南部」漆物語を活用した観光コンテンツ造成による、国内外から誘客と地域消費拡大に向けた事業を推進した。 ・東北街道会議のシンポジウムを安代地区で実施し、鹿角街道をテーマに実際のコースを実施し、アドベンチャートラベルの観点からの可能性を探った。	順調	・歴史的な奥深さや文化的な背景を魅せるには漆器だけでなく、漆に着目し、漆の日本文化全体に果たした役割などを併せて紹介することでインバウンドに刺さるストーリーにすることが可能性がある。	・漆の日本文化における重要性を首都圏や有名観光地の寺社仏閣、博物館で学んだあとにその原産地の二戸・八幡平を訪れる商品の開発が必要である。 ・アドベンチャートラベルの要素を加えるために鹿角街道のトレッキングなどを組み合わせる。	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会) ○日本遺産事業と連携した取組み(奥南部協議会)
14	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6-2 食の体験コンテンツ強化	地域食材の活用や食の体験コンテンツの提供を推進し、観光客の満足度向上につなげます。また、アグリツーリズムをテーマとした食や農の体験プラン造成、食材情報プラットフォームの整備を通じ、農(みのり)の観光コンテンツ化を目指します。	①食材情報のプラットフォーム整備 食材情報WEBページ構築 R8までに構築 ②アグリツーリズムをテーマにした周遊プラン等商品開発 新規事業者数 R6-R7 1件、R8 2件	①食材情報のプラットフォーム整備 食材情報WEBページ構築 周遊コース紹介のWEBページを開設 ②アグリツーリズムをテーマにした周遊プラン等商品開発 新規事業者数 - ○【観光庁】「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」(DMO) ・ワシントンD.C.のミシュラン2つ星シェフを招聘し地域の食材を使用した高付加価値ディナーを造成した。	順調	・地産地消の機運が高まっており、地域の食材を活用したメニューの提供の機会が増加している。 ・地元食材を素材から調理するには、コストがかかるため、域外で生産された調理済み献立などを使用するケースが多い。	・市内には豊かな食材が多くあるが、加工品がなく、地元食材等を活用した土産品が乏しい。こうした加工品などの取り組みの検討により、食材と地域のPRに繋がり、地域経済貢献に寄与することとなる。 ・海外のレストランに八幡平の食材や食の担い手が訪問して、コラボレーションし、八幡平を紹介するイベントの開催や八幡平・盛岡のシェフでも海外を魅了できるクオリティの向上を図る。	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会)
15	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6-3 市民向けの観光体験提供	市民や、次世代を担う子供達が地域への誇りと愛着を醸成する取組みとして、観光に関する授業や市民向けの観光体験会を実施し、観光人材の確保につなげます。	①平館高校への観光授業の提供 観光人材の確保 3名 ②市民向け観光体験会の実施 実施回数 4回	①平館高校への観光授業の提供 観光人材の確保 3名 ②市民向け観光体験会の実施 実施回数 0回 ○観光地の満足度向上業務(DMO) ・平館高校への授業の提供 ○DMO調査分析業務(DMO) ・市民向けアンケートの実施	順調	・平館高校のコーディネータが高校魅力化プラットフォームの全国高校コーディネーター研修に参加し、地域と連携した探求学習のプログラム開発を体系的に学び、その成果がでている。 ・市民向け体験会の参加者が少なく、令和6年度の市民向け調査の中で意向を確認し検討する。	・市内学生や平館高校卒業生がつながるネットワークを利用し、地域での就業情報などの紹介に向けての検討が必要である。	○観光人材育成事業(市) ・平館高校への観光に関する授業の提供
16	Ⅲ.「つなぐ」	⑦豊かな観光資源を次世代につなぐ	7-1 観光資源の保全	貴重な観光資源の喪失を防ぐため、市民や観光関係事業者を中心に、観光資源の維持・保全に係る取組みや民間資金を募るクラウドファンディング等による資金調達を検討します。また、これまでの活動を支援し、次世代に観光資源を引き継ぐ活動に取り組んでいきます。	①自然保全・環境問題の取組み 実施回数 1回 ②関係機関との連携 連携団体数 1団体	①自然保全・環境問題の取組み 実施回数 1回(荒天のため中止) ②関係機関との連携 連携団体数 0団体 ○八幡平外来植物駆除活動の実施 ・環境省盛岡管理官事務所による事前学習の実施	やや遅れ	・外来植物駆除活動は松尾中学校の環境学習として定着した行事であり、未来につなげる活動として継続することが重要である。 ・新たな取組みも含めて、市民や民間団体を巻き込んだ活動に広げられるよう検討が必要である。	・外来植物駆除活動の取組み等を情報発信することにより、市民や民間団体に自然環境の維持・保全の理解を深める。	○松尾中学校生徒による八幡平外来植物駆除活動を実施(市・協会) ・情報発信に向けた検討を行う。 ○ふるさと納税を活用したクラウドファンディング(市)
17	Ⅲ.「つなぐ」	⑧交通アクセスの拡充	8-1 交通アクセスの拡大・改良	観光需要に配慮したコミュニティバスの利用検討と電気バスやEV車等の導入の推進、自家用有償運送等の新たな移動手段の検討と岩手山サービスエリアのバス停設置を通じ、観光客のアクセス向上を目指します。	①市内バス運行の効率化(岩手山SAバス停設置、コミュニティバス利用等) 新たな運行構築 R8構築完了 ②電気バス・EV車等の新たな移動手段の導入 EV車の導入台数 R8まで1台 ③自家用有償運送・ガイドによる観光客送迎の実施とエリア拡大 1エリア	①市内バス運行の効率化(岩手山SAバス停設置、コミュニティバス利用等) 新たな運行構築 - ②電気バス・EV車等の新たな移動手段の導入 EV車の導入台数 - ③自家用有償運送・ガイドによる観光客送迎の実施とエリア拡大 1エリア ○安比高原観光輸送協議会による自家用有償旅客運送の開始 ○八幡平市地域公共交通活性化協議会との連携	順調	・盛岡市～八幡平市間の路線バスの再編の状況を踏まえ、観光バスの効率化についても並行して検討する必要がある。 ・自家用有償運送のエリア追加が必要かも含めて検討が必要である。	・八幡平市地域公共交通活性化協議会と連携し、路線バス、花輪線と一体となった交通網としての検討を行う。	○自家用有償運送の実施についての情報収集(市) ○八幡平市地域公共交通活性化協議会による協議(市) ○他地域の取組みの研究(市)
18	Ⅲ.「つなぐ」	⑨観光推進体制の強化	9-1 観光推進体制の強化	市観光協議会や市観光振興審議会と連携し、計画のPDCAを推進し、進捗状況の評価や検証する体制を強化します。さらに、観光経営人材育成や観光施策財源確保に向けた検討を行います。また、関係人口、交流人口の増加につながる、ファンコミュニティの仕組みづくりを構築します。	①観光地域づくり法人(観光プラットフォーム)の体制強化 協議会実施回数 4回 ②ファンコミュニティの形成 ファン数 R8までに10,000人	①観光地域づくり法人(観光プラットフォーム)の体制強化 協議会実施回数2回 ②ファンコミュニティの形成 ODMO調査分析業務 ・宿の予約エンジンと連動し、日本語を含む地域OTA機能を搭載した多言語ウェブサイト整備 ・ファンクラブ構築に向けたメールマガジンの配信をスタートしCRMシステムの構築を行った。 ・DMOメールマガジン登録者数 日本語版 1,762人 英語版 515人 ・協議会構成員にメールでの資料提供を行った。	順調	・ファンクラブ設立に向けての運営体制等の検討が必要である。 ・八幡平市観光協議会へのメールでの情報提供の頻度を増やし、メール内でも意見交換を可能とする。 ・ファンクラブ設立前に実証を行い、検証を行う。	・八幡平市観光協議会構成員との連携を強化する。 ・R7の新体制を見据えた、運営体制の構築を進める。 ・「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業の施策での取組み。	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会) ○八幡平市観光動向分析調査等業務(DMO) ・満足度、観光消費等マーケティングデータ収集及び分析※登録DMO必須 ・ファンコミュニティの形成